

## AMED「産学連携医療イノベーション創出プログラム(ACT-MS)」の採択について

### ー 家族性大腸腺腫症に対する抗体誘導ペプチド開発プロジェクト ー

株式会社ファンペップ（本社：大阪府茨木市、代表取締役社長：平井昭光、以下「当社」という。）は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（以下「AMED」という。）が公募していた平成30年度医療分野研究成果展開事業・産学連携医療イノベーション創出プログラム セットアップスキーム（ACT-MS）（以下、「本支援制度」という。）に、香川大学、大阪大学及び京都府立医科大学と共同提案しておりました下記の研究開発課題が採択されましたことをお知らせ致します。

研究開発課題名	家族性大腸腺腫症に対するワクチン治療開発
代表機関	香川大学
課題リーダー	西山 成（香川大学医学部薬理学教授）
セットアップ企業	株式会社ファンペップ

家族性大腸腺腫症は、大腸に多数（100個以上）の腺腫（ポリープ）が発生する遺伝性疾患であり、放置すれば、ほぼ全ての患者で大腸癌が発生して死亡します。大腸癌の発生を予防するため、外科的大腸切除による治療が行われていますが、下痢や軟便、脱水、腸閉塞等の後遺症によるQOL（生活の質）低下が問題となっています。また、新しい試みの治療法としては、薬物療法や内視鏡的ポリープ切除の臨床試験が行われているものの、現時点では実臨床での治療法として確立しておらず、治療効果が高く、身体的に負担の少ない新規治療法が切望されています。

本研究開発では、香川大学（代表者：医学部薬理学教授 西山 成）、大阪大学（代表者：大学院医学系研究科健康発達医学寄附講座教授 中神 啓徳）、京都府立医科大学（代表者：分子標的癌予防医学特任教授 石川 秀樹）と、将来の事業化を担当する当社が産学連携にすることによって、家族性大腸腺腫症に対する抗体誘導ペプチド（治療ワクチン）の動物を用いた薬効試験や化合物最適化等の研究を実施するとともに、前臨床試験及び臨床試験の準備を進めていく予定で、抗体誘導ペプチドによる新規治療法開発を目指してまいります。

本支援制度は、アカデミア発の「技術シーズ」を産業界に円滑かつ効果的に移転するための、産学連携による研究開発を支援する制度です。

対象期間は、平成30年9月から平成32年3月までであり、研究開発を実施する各大学が、必要な費用を受領する予定です。

なお、本支援制度の詳細については、下記を御参照下さい。

<AMED 産学連携医療イノベーション創出プログラム・基本スキーム (ACT-M) /セットアップスキーム (ACT-MS) >

<https://www.amed.go.jp/program/list/02/02/004.html>

#### <参考情報>

#### **抗体誘導ペプチド**

抗体誘導ペプチドは、標的分子の働きを阻害する抗体を体内で産生させるようにデザインされた治療ワクチンであり、数カ月毎に一回の投与で抗体を維持し、持続的な薬効を期待できることが特徴です。

抗体誘導ペプチドは、感染症予防ワクチン等の従来のワクチンと異なり、獲得免疫システムのうち、細胞性免疫（細胞傷害性T細胞）を活性化させずに、抗体産生に関連する液性免疫（B細胞）を選択的に活性化させることが特徴です。これにより、細胞性免疫を活性化することによる副作用（自己免疫反応）を回避し、自己タンパク質を標的分子とする慢性疾患治療薬として実用化することを目指しています。

当社では、抗体産生を選択的に誘導することから、このペプチドを「抗体誘導ペプチド」と呼んでいます。

#### <ファンペップお問い合わせ先>

株式会社ファンペップ 管理部

東京オフィス：東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-8-4 第7 瑞穂ビル 3 階

Tel : 03-5315-4200 Fax : 03-5315-4203

E-mail : info-fpp@funpep.co.jp

#### <香川大学お問い合わせ先>

香川大学 医学部 総務課広報担当 中屋敷隆博

TEL : 087-891-2008 FAX : 087-891-2016

E-mail : kouhou@med.kagawa-u.ac.jp

以上